



かぶにょうろしょうこうぐん 下部尿路症候群(FLUTD)って?

猫の尿の中に結晶が作られることで泌尿器におこる一連の症状のこと。

結晶自体が膀胱を傷つけたり、結晶の集まりが塊状になり、できた結石が尿道につまってしまう尿道閉塞の症状などが起こります。

とくに尿道が細いオスは結晶が詰まりやすく、完全に詰まると尿毒症を発症し、命に危険を及ぼすことも。

主な症状

- 血尿 ●頻尿 ●元気がなくなる
- 排尿姿勢を取るが尿が出ない
- トイレから出たり入ったりを繰り返す
- トイレでない所で粗相をしてしまう など

主な原因

猫の飲水量や体質、食事内容などが原因だと考えられていますが、その他の要因としてストレスや肥満も関与するといわれています。

猫の尿は一般的に弱酸性ですが、食事のリンやマグネシウムの過剰摂取によって尿のpHが変化し、尿中にリン酸アンモニウムマグネシウム(ストラバイト)という結晶が作られやすくなります。この結晶によって、膀胱炎や尿道閉塞などの症状が起こります。この病気は男のコでも女のコでも起こりますが、特に男のコで重症となることが多いようです。女のコの尿道は一般的に太く短い構造なのですが、男のコの尿道は細く長い構造をしていて、先端につれてさらに細くなっているため、結晶や結石がつまりやすくなっているためです。

検査と治療

触診で膀胱の状態を把握し、レントゲンや超音波の検査で尿結石の確認を行います。尿検査も行うことがあります。

治療は、一般的に、結晶や結石によって尿道がつまっているときには、カテーテルを尿道に挿入したり、超音波などで破砕することなどにより、尿道の障害となっている結晶や結石の除去を行ないます。また、尿の検査を行い、検査結果や原因により食事療法や抗生物質等による内科的治療が行なわれます。結晶や結石の除去が困難なときには、手術による外科的な治療が必要となることもあります。

腎不全や尿毒症の場合、命に関わることもあるため、多くの場合入院しての治療となります。下部尿路症候群は、発症の原因に猫の体質も関与し、治療後も再発することが多い病気なので、再発防止を心がける必要があります。

予防法

リン酸アンモニウムマグネシウム(ストラバイト)結晶の予防には低リン、低マグネシウムの食事を心がけるとともに、猫が新鮮な水をいつでも飲むことが出来るような環境にしましょう。また、早期発見が重要となってきますので、日頃猫の水の飲む量やトイレの回数、尿色や量などをきちんと確認することが大切です。



雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号(2ヶ月分)無料!!

